

Seasonal changes in activity levels among nursing care insurance service users in areas with different climates.

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード: 作成者: 山崎, 雅也, Yamasaki, Masaya メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/44067

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.






平成 27 年 2 月 18 日

博士論文審査結果報告書

報告番号 _____
学籍番号 1127022015 _____
氏 名 山崎 雅也 _____

論文審査員

主 査 (教授) 能登谷晶子 
副 査 (教授) 染矢富士子 
副 査 (教授) 少作隆子 

論文題名 Seasonal changes in activity levels among nursing care insurance service users in areas with different climates. (異なる気候地域に在住する介護保険サービス利用者の活動量の季節性変化について)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

地域在住高齢者の活動量について地域の気候の季節変動が影響するかどうかを検討した。対象は日本海側気候地域（石川県）と瀬戸内海式気候地域（大阪府，兵庫県）在住の 72 名で屋内移動動作が自立している 65 歳以上の介護保険サービスの利用者である。対象者の FIM は地域間での差はなく，活動量は Life Space Assessment (LSA) を用いて評価した。まず，48 名について秋季（平成 25 年 10 月）には LSA で同等であった各在住者の活動量は，冬季（平成 26 年 2 月）には日本海側気候地域（32 名）で LSA 合計点および下位項目の Life Space using Equipment と Maximal Life-Space において有意に低下した。なお，Independent Life-Space については維持されていた。これに対して瀬戸内海式気候地域（16 名）では活動量の低下を認めなかった。次に，別の 24 名について冬季（平成 26 年 2 月）には LSA で同等であった各在住者の活動量は，春季（平成 26 年 4 月）には日本海側気候地域（13 名）で活動量の変化はなかったが，瀬戸内海式気候地域（11 名）では Maximal Life-Space において有意に増加を示した。この Maximal Life-Space は物的および人的介助を用いて活動した最大のレベルを活動範囲と頻度の積で示しており，研究期間中の冬季における積雪については，最深積雪 0cm 以上の日数が瀬戸内海式気候地域では 0～4 日/月に対し，日本海側気候地域では 12～14 日/月であったことから，この屋外環境の違いが外出などの機会を減少させた可能性が考えられた。

【審査結果の要旨】

本研究は，身体機能の低下している高齢者について各地域における生活空間や活動量について客観的に検討したものであり，今後介護保険サービスの利用者の活動能力の維持を考慮するうえで貴重な知見を提供している。特に，日本海側気候地域では，冬季に自立して活動した最大のレベルが低下しないにもかかわらず，物的および人的介助を用いて活動した最大のレベルが低下することを考えると，季節によって援助を柔軟に変動させる必要性が示唆される。掲載誌が国内でインパクトファクターの付いている雑誌で，今後この知見が本邦で利用される可能性が高い。以上，学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき，博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。